

京都外国語大学 大学院公開講座



—日本とヨーロッパの比較から—

顔の 文化史

「人は見かけが9割」という通説があるように、人間は顔というコードを通じて相手の人物判断をするのがつねである。そのために日常生活でも、就職活動の際の履歴書、パスポート、運転免許証など、重要な書類や証書には顔写真が添付される。ところが日本とヨーロッパの顔を比較すると、判断基準が同一ではなく、それぞれの歴史的背景に由来する、固有の文化や美意識が存在することがわかる。

たとえば日本では正面が正しい向きであり、顔写真も正面顔で撮るのが通例である。それに対してヨーロッパでは、プロフィールという言葉があるように、肖像画やコインなどに横顔の構図が多い。したがって今回は、日本の「正面顔の文化」と、ヨーロッパの「横顔の文化」というキーワードで両者を、それぞれの歴史に遡及して比較してみようと思う。その結果、日欧の化粧方法、美意識、世界観の差をクローズアップすることができるであろう。

2014年7月13日(日) 13:30~16:30

京都外国語大学
171教室(1号館7階)

参加費無料 定員180名 どなたでも参加できます

- 申し込み不要
- 問い合わせ先 京都外国語大学国際言語平和研究所 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6
TEL: 075-322-6054 FAX: 075-322-6245 E-mail: gengo@kufs.ac.jp
- 主催 京都外国語大学大学院
- 共催 京都外国語大学国際言語平和研究所

パネリスト(敬称略、発表順)

- 浜本 隆志(関西大学文学部教授)
- 樋口 穰(京都外国語大学外国語学部教授)
- いそづみ めりの
五十楼 愛瑠乃(京都外国語大学大学院博士前期課程1年次生)

ファシリテーター(敬称略)

- 近藤 直樹(京都外国語大学外国語学部准教授)
- 青木 敬(京都大学大学院博士後期課程2年次生)

司会

- 菅野 瑞治也(京都外国語大学外国語学部教授)



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies